

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

## 27. キュウリグサ（ムラサキ科キュウリグサ属）

*Trigonotis peduncularis* (Trevir.) Benth.

2015年3月

田んぼや畦畔、畑、道ばたに普通に見られる繊細な越年草です。茎は高さ10~30 cm、基部で分枝し直立または斜上あるいはやや匍匐します。葉は互生し下部の葉は柄があり、葉身は長楕円形~卵形で両面に細かい伏毛が多く、長さ1~3 cm、幅6~15 mmです。3~5月に径2 mmほどの淡青紫色花を総状花序に多数つけます。花序は苞がなく先はぜんまい状に巻き、細長い花穂が特徴となります。分布は北海道、本州、四国、九州、沖縄、朝鮮、アジアで、姫路市においても田んぼや畑、道ばたによく見られます。和名の由来は葉を揉むとかすかにキュウリのにおいがするところから来ています。別名タビラコといいますが、春の七草のタビラコはキク科のコオニタビラコのことです。本種と異なります。

同様の環境に生育するよく似た種類に同科ハナイバナ属のハナイバナ (*Bothriospermum tenellum* (Hornem.) Fisch. et C.A.Mey.) があります。キュウリグサ同様、繊細な植物です。違いはキュウリグサが茎頂に花穂をつけるのに対し、ハナイバナは茎上部の葉腋か葉と葉の間に一花ずつつけます。和名は葉の間に花があるというところから葉内花となりました。



キュウリグサ



若いキュウリグサ



ハナイバナ